

# 地域と進化する男木島観光マップへの挑戦

代表者 緒方彩七（経済学部経済学科2年）

## 1. 目的と概要

本プロジェクトは、男木島の観光の一助となることを目的とし、島民や観光客が利用しやすい観光マップの制作・配布を主な活動とした。当初は、昨年度に制作した多言語対応の観光マップを活用しながら、実際に観光ガイドを行う予定であった。しかし、活動を進めるなかで、ガイドで使用するには、昨年度のマップの内容では不十分であることが明らかとなり、より実用的な情報を盛り込む必要があると判断した。そこで、男木島観光協会との協議を経て、計画を変更し、より実用的なマップの制作を進めた。新たに制作したマップは、日本語版と英語版の2種類を用意し、多くの観光客に対応できるよう改良した。また、2025年に開催される瀬戸内国際芸術祭を見据え、マップの内容をより充実させた。

## 2. 実施期間（実施日）

令和6年6月1日から令和7年3月31日まで

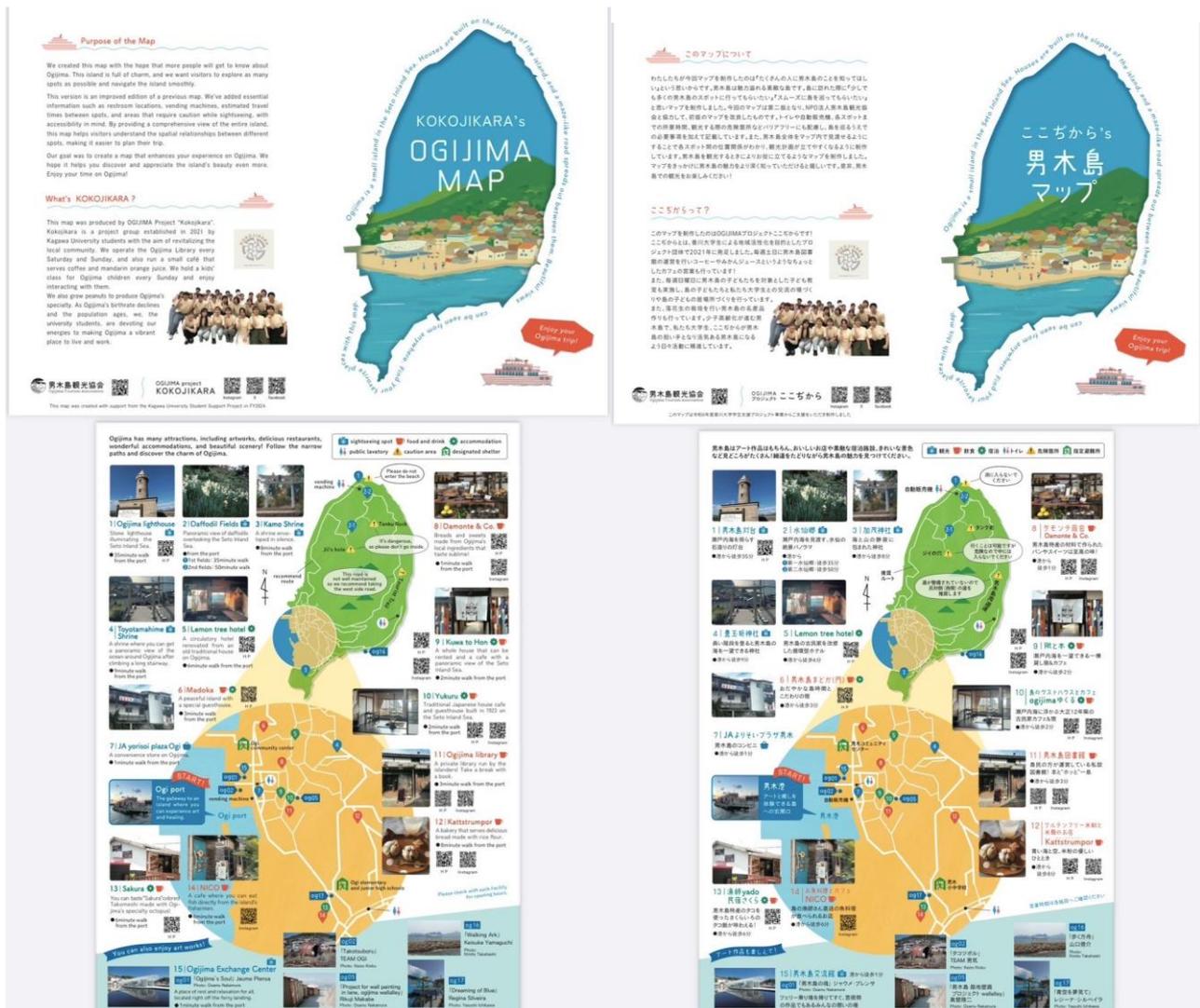
## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、昨年度のマップの課題を解決し、観光客にとってより使い勝手の良いものへと改良することを目指した。新たに制作したマップには、トイレや自動販売機の位置、避難場所、危険箇所などの情報を追加し、観光客が安心して島を巡ることができるよう工夫した。英語版について、簡潔で分かりやすい英語表現を用いることで、より多くの外国人観光客に対応できるよう配慮した。さらに掲載する写真については事前に許可を得たうえで選定を行った。男木島観光協会のサポートを受けながら、島民だからこそ知る貴重な情報を盛り込み、より実用的なマップを作成することができた。このマップは高松市内および男木島内の約15カ所に設置し、昨年度よりも配布場所を増やした。フェリー乗り場や観光地、バス停留所や商業施設など、観光客が手に取りやすい場所に設置したことにより、多くの人に届き、活用してもらえる環境を整えることができた。今年度は部数を増やし、瀬戸内国際芸術祭に向けた対応も進めた。

当初予定していたガイド活動については、マップの改良を優先したことで縮小することとなったが、そのなかでも観光協会との連携を深め、次年度予定している本格的なガイド活動に向けた準備を進めることができた。具体的には、実際に観光協会のガイド活動に参加し、現地での案内の流れや観光客の求める情報について学ぶ機会を得ることができた。さらに、島内を巡りながら、ルート選定や説明の工夫を検討し、ガイド活動における課題を整理することができた。観光協会のガイドの方々とも意見交換を行い、ど

のような情報を提供すれば満足度が上がるのかなどといった点について検討した。

以上の活動を通じて、観光協会との関係を強化できたことで、今後のガイド活動をスムーズに進めるための協力体制が整った。今回の取り組みに対して、観光協会や島民から、非常に好評であり「男木島の魅力がよくまとめられているマップで感動した」といった好意的な声もいただいた。さらに男木島観光協会のウェブサイトでの掲載も予定されており、今後さらにマップを活用してもらえることを期待している。



#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより男木島観光協会との関係がより深まり、島民や観光客にとって、男木島に関する必要性の高い情報を発信できる場を築くことができた。新しく制作したマップは、これまでの男木島の案内資料に加えて、観光客の受け入れを支える重要なツールとなった。またマップの配布を通じて、男木島の観光資源が広く認知されるようになり、観光客の誘致にもつながった。特に2025年度は瀬戸内国際芸術祭の開催に向けて、観光客が増加することが予想されることから、今回制作したマップが活用されることが期待される。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

今回の活動を通じて、計画変更時の柔軟な対応力や、地域関係者との調整を行いながらプロジェクトを進める力を養うことができた。当初予定していたガイドの実施からマップ制作へと計画を変更するなかで、チーム内での意思決定や外部との調整の重要性を実感した。また観光協会や地元住民とのやりとりを通じて、地域活性化には現地の意見を取り入れながら取り組むことが不可欠であると学んだ。今回の経験を踏まえて、次年度の活動では、より実践的なガイドを行い男木島に貢献していきたいと考える。

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今年度の活動では、ガイドの実施を予定していたが、マップの改良を優先したこともあり、一部計画を変更せざるを得なかった。早期にマップの課題に気づき、スムーズな計画変更ができていれば、ガイドとの両立も可能であった。一方でマップ制作においては、観光協会との連携を深めながら進めることができた。より多くの島民の意見を盛り込んだことで、さらに精度の高いマップに仕上げることができた。ガイド活動では、ガイドの大まかな流れを知るとともに、様々な視点からの課題を発見することができ、自分たちが今後何をすべきなのかを明確にすることができた。

今後は、今回制作したマップを活用しながら、本格的なガイドを実施することを目標とする。そのために、まずは瀬戸内国際芸術祭の春会期と夏会期の間の時期を目標に準備を進めていく予定である。具体的には9月にプレガイドを実施し、実際に観光客を案内することで、ガイドの流れを理解する。また来年度中には本格的なガイドを開始し、より多くの観光客に向けた案内を行うことを考えている。そのために、観光協会が実施するガイドに参加して、男木島の島民だけが知る豆知識などを蓄えていきたい。

今年度の活動では、当初の計画通りに進まない場面も多々あったが、そのなかでも柔軟に対応しながら、最善の行動をとることの大切さを学んだ。計画変更はネガティブなものではなく、その都度より良い形を模索していくことが大事だと考えるようになった。来年度は、マップを実際に活用しながら観光ガイドを行い、より多くの観光客に男木島の魅力を伝えられるように努めていきたい。

## 7. 実施メンバー

代表者 緒方 彩七（経済学部 2年）

構成員 石井心（経済学部 3年） 田中春名（経済学部 3年）  
 枝川姫菜（経済学部 3年） 大塚すず（法学部 3年）  
 大野璃子（法学部 3年） 中井美優（創造工学部 3年）  
 浅居美行（経済学部 2年） 岩田空弥（経済学部 2年）  
 岡野杏香（経済学部 2年） 岡本陽奈（経済学部 2年）  
 河原宏樹（経済学部 2年） 桑原美佑（教育学部 2年）  
 坂越翔陽（経済学部 2年） 進賀堅太（経済学部 2年）  
 滝本桃果（経済学部 2年） 武内みなみ（経済学部 2年）  
 橋本朔（経済学部 2年） 藤谷円花（経済学部 2年）  
 古井駿成（経済学部 2年） 前田透吾（経済学部 2年）  
 宮田知依（経済学部 2年） 岩田煌大（経済学部 1年）  
 岩本展広（経済学部 1年） 江原末祐（経済学部 1年）  
 川内葉月（経済学部 1年） 河原萌愛（経済学部 1年）  
 木村彩音（経済学部 1年） 木村萌々花（経済学部 1年）  
 佐々木香凜（経済学部 1年） 篠藤美伶（経済学部 1年）  
 白石圭三（経済学部 1年） 高木優芽（経済学部 1年）  
 藤岡いずみ（経済学部 1年） 牧原歩美（経済学部 1年）  
 岡田和（創造工学部 1年） 石原愛士（創造工学部 1年）  
 貫井奏希（教育学部 1年） 藤森翔大（教育学部 1年）  
 真鍋武流（経済学部 1年）

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		200,000円		
執行経費（品目等）	数量	単価(円)	金額(円)	備考
ネームカードホルダー(SONIC)	1	1,590	1,590	
リングバインダー	3	559	1,677	
A4書きやすいルーズリーフ	2	461	922	
A4ルーズリーフ無地	1	373	373	
交通費(高松港-男木港)	43	1,020	43,860	
交通費(高松-直島)	9	990	8,910	
デザイン料	1	17,120	17,120	
マップ印刷費用				
合計			122,230	